（様式１－１）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ

**令和５年度　中堅教諭等評価票（自己評価用）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | 職名 |  | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 学年団・  担任等 |  | 担当教科・科目等 | | |  |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅教諭等として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅教諭等として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持について、校内での意識が高まる雰囲気をつくることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教育に携わるとともに、後輩教員への支援をすることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えをその背景を含めて理解し、状況に応じて、適切な助言やかか  わりができる。  ・教育者としての自覚ある言動を通して、子どもや保護者、同僚及び地域の人々と  の信頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの  専門性を高めるとともに、学校課題を自らの課題として捉え、改善を図ることが  できる。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を示し、積極的に教育情報を収集  　したり、課題解決のための具体的な提案をしたりしながら、共に高め合う教員集  団づくりに貢献することができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくり  に積極的にかかわり、一人一人の児童生徒に心地よい居場所をつくることができ  る。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応じ  た適切な指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 |
| 学習指導 | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 |  |
| (例)・学習指導要領の教科、領域等の趣旨やねらいを理解し、教育課程を適切に運営し、  「主体的・対話的で深い学び」を通して、児童生徒の資質・能力の向上に努めるこ  とができる。  ・周囲からの意見、自己の授業の振り返りや適切な学習評価等を基に、積極的に授業  改善に取り組み、より一層専門的な知識や技能を身に付けることができる。 |
| 生徒指導 | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 |  |
| (例)・他の教員と組織的に対応しながら、学級や学年のみならず学校全体の児童生徒の実態を把握し、よりよい集団づくりに取り組むことができる。  ・児童生徒の自己存在感を高めるとともに、児童生徒の将来を見据え、問題解決能  力を高めるための支援をすることができる。 |

（様式１－１）

受講者名

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | 評価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自校の特徴と課題を踏まえ、積極的に特色ある学校づくりに参画することができる。  ・学年団や分掌等の要となり、学校の課題解決に向けて、リーダーシップを発揮  することができる。 | | |
| 参画 ・ 運営 | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | |  |
| (例)・保護者や地域、外部の専門機関等との連携の強化に努め、組織の一員として、  その関係を円滑にするために働きかけることができる。  ・協働的な教員集団づくりに中心となってかかわるとともに、後輩教員に的確な  助言や支援をすることができる。 | | |
| 危機管理 | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | |  |
| (例)・危機管理意識を持ち、安全管理に対して適切な対応をするとともに、学校全体  のリスクやトラブルに対する対応策や未然防止策を提案することができる。  ・的確な判断の下、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全に留意した校  内外の環境を整えることができる。 | | |
| 特別な配慮や支援を  必要とする  子どもへの対応 | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性、気持ち及び困難の背景等を理解するとともに、教育支援に関する情報を確実に引き継ぎ、切れ目のない支援を推進することができる。  ・関係教職員、保護者や関係機関等と連携の強化に努め、個々の課題を解決するた  　めに指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用した授業を展開したり、児童生徒の学習や生活に関わる個人情報等教育データを適切に活用したりするとともに、他の教員のICT活用指導力の向上にための助言や支援をすることができる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うとともに、校内の情報化においてリーダーシップを発揮することができる。 | | |
| 研修に向けての課題等 |  | | | | |
|  | | | 評価年月日 | 令和　　年　　月　　日 | |

（様式１－２）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ

**令和５年度　中堅教諭等評価票（案）（校長評価用）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | 職名 |  | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 学年団・  担任等 |  | 担当教科・科目等 | | |  |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅教諭等として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅教諭等として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持について、校内での意識が高まる雰囲気をつくることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教育に携わるとともに、後輩教員への支援をすることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えをその背景を含めて理解し、状況に応じて、適切な助言やかか  わりができる。  ・教育者としての自覚ある言動を通して、子どもや保護者、同僚及び地域の人々と  の信頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの  専門性を高めるとともに、学校課題を自らの課題として捉え、改善を図ることが  できる。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を示し、積極的に教育情報を収集  　したり、課題解決のための具体的な提案をしたりしながら、共に高め合う教員集  団づくりに貢献することができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくり  に積極的にかかわり、一人一人の児童生徒に心地よい居場所をつくることができ  る。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応じ  た適切な指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 |
| 学習指導 | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 |  |
| (例)・学習指導要領の教科、領域等の趣旨やねらいを理解し、教育課程を適切に運営し、  「主体的・対話的で深い学び」を通して、児童生徒の資質・能力の向上に努めるこ  とができる。  ・周囲からの意見、自己の授業の振り返りや適切な学習評価等を基に、積極的に授業  改善に取り組み、より一層専門的な知識や技能を身に付けることができる。 |
| 生徒指導 | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 |  |
| (例)・他の教員と組織的に対応しながら、学級や学年のみならず学校全体の児童生徒の実態を把握し、よりよい集団づくりに取り組むことができる。  ・児童生徒の自己存在感を高めるとともに、児童生徒の将来を見据え、問題解決能  力を高めるための支援をすることができる。 |

（様式１－２）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自校の特徴と課題を踏まえ、積極的に特色ある学校づくりに参画することができる。  ・学年団や分掌等の要となり、学校の課題解決に向けて、リーダーシップを発揮することができる。 |
| 参画 ・ 運営 | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 |  |
| (例)・保護者や地域、外部の専門機関等との連携の強化に努め、組織の一員と  して、その関係を円滑にするために働きかけることができる。  ・協働的な教員集団づくりに中心となってかかわるとともに、後輩教員に  的確な助言や支援をすることができる。 |
| 危機管理 | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 |  |
| (例)・危機管理意識を持ち、安全管理に対して適切な対応をするとともに、学  校全体のリスクやトラブルに対する対応策や未然防止策を提案すること  ができる。  ・的確な判断の下、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全に留意した校内外の環境を整えることができる。 |
| 特別な配慮や支援を必要とする  子どもへの対応 | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性、気持ち及び困難の背景等を理解するとともに、教育支援に関する情報を確実に引き継ぎ、切れ目のない支援を推進することができる。  ・関係教職員、保護者や関係機関等と連携の強化に努め、個々の課題を解  決するた  　めに指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 |  |
| (例)・ICTを効果的に活用した授業を展開したり、児童生徒の学習や生活に関わる個人情報等教育データを適切に活用したりするとともに、他の教員のICT活用指導力の向上にための助言や支援をすることができる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うとともに、校内の情報化においてリーダーシップを発揮することができる。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 総 合 所 見 |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 報告  年月日 | 令和　　年　　月　　日 | 報告者 | 校長 |

受講者名

（様式２）　　**令和５年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ実施計画書(案)**

校名（　　　　　　　　　　　学校）　　受講者名（　　　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長名（　　　　　　　　　　　　）

|  |  |
| --- | --- |
| 個人研修課題 |  |

**年間計画**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 | 県教育センター等における研修 | 校内等における研修 | 事前課題・提出物等 |
| ４ |  |  |  |
| ５ |  |  |  |
| ６ |  |  |  |
| ７ |  |  |  |
| ８ |  |  |  |
| ９ |  |  |  |
| １０ |  |  |  |
| １１ |  |  |  |
| １２ |  |  |  |
| １ |  |  |  |
| ２ |  |  |  |
| ３ |  |  |  |

**第２回選択型研修（異校種体験研修、専門研修、教職大学院連携研修）**

|  |  |
| --- | --- |
| 選択研修名・場所 | 研修日 |
|  |  |

・専門研修及び教職大学院連携研修は、別途申込みが必要である。

・２ページになる場合は、両面印刷すること。

（様式３－１）　　　　　　　　**研修課題別協議資料**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 校名 | 学校 | 受講者名 |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 協議分野  （選択したものに〇） |  | [Ａ]　学級経営 |
|  | [Ｂ]　キャリア教育 |
|  | [Ｃ]　生徒指導・教育相談 |
| 具体的な研修課題 |  | |
| １　上記研修課題設定の理由  ２　課題解決に向けた取組 | | |

・　２ページ以内にまとめる。２ページになる場合は、両面印刷すること。

（様式３－２）　　　　　　　**研修課題別成果発表資料**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 校名 | 学校 | 受講者名 |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 協議分野  （選択したものに〇） |  | [Ａ]　学級経営 |
|  | [Ｂ]　キャリア教育 |
|  | [Ｃ]　生徒指導・教育相談 |
| 具体的な研修課題 |  | |
| １　実践報告  ２　成果と課題  ３　今後への展望 | | |

・　２ページ以内にまとめる。

（様式４－１） **令和５年度 中堅教諭等資質向上研修Ⅱ実施報告書①（本人用）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | 職名 |  | | ﾌﾘｶﾞﾅ |  | |
| 受講者名 |  | |
|  | | | | | | | | |
| 観　点 | | 育成指標 | | | | | | 報告及び自己評価 |
| **A**  **素**養・資質 | **使命感・責任感** | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | |  |
| **コミュニケーション** | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | |
| **自己研鑽** | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | |  |
| **学習指導** | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 | | | | | |
| **生徒指導** | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| **参画・運営** | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |
| **危機管理** | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| 成果と課題 |  | | | | | | | |
|  | | | | | 報告年月日 | | | 令和　　年　　月　　日 |

（様式４－２）　　 **令和５年度 中堅教諭等資質向上研修Ⅱ実施報告書②**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校  名 | 学校 | 職名 |  | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |

＜研究授業（第１回）＞

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実施日 | **令和　　年　　月　　日　（　　　）** | **ＩＣＴ活用の有無** | **有 ・ 無** |
| 学級、教科・単元等 |  | | |
| 本時の展開の概要  ・  振り返り |  | | |

＜研究授業（第２回）＞

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実施日 | **令和　　年　　月　　日　（　　　）** | **ＩＣＴ活用の有無** | **有 ・ 無** |
| 学級、教科・単元等 |  | | |
| 本時の展開の概要  ・  振り返り |  | | |

＜**第２回選択型研修（異校種体験研修、専門研修、教職大学院連携研修）**＞

|  |  |
| --- | --- |
| 選択した研修 |  |
| 実施日 | **令和　　年　　月　　日　（　　　）** |
| 研修概要  ・  振り返り |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 報告  年月日 | 令和　　年　　月　　日 | 報告者 | 校長 |

（様式４－３）　**令和５年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ実施報告書（校長用）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | | 職名 | |  | | ﾌﾘｶﾞﾅ |  |
| 受講者名 |  |
|  | | | | | | | | | |
| 観　点 | | | 育　成　指　標 | | | | | | |
| A  素養・資質 | **使命感・責任感** | | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | | |
| **コミュニケーション** | | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | | |
| **自己研鑽** | | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | | |
| **学習指導** | | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 | | | | | | |
| **生徒指導** | | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 | | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | | |
| **参画・運営** | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | | |
| **危機管理** | | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | | |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | | |
| 総合所見 |  | | | | | | | | |
| 報告  年月日 | | 令和　　　年　　　月　　　日 | | | 報告者 | | 校長 | | |